

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価に関する報告書
(平成29年度事業実績)

平成30年8月
茨城町教育委員会

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要	
1	経緯	1
2	目的	1
3	対象	2
4	点検及び評価の方法	2
5	茨城町教育委員会評価委員会委員	3
6	評価委員会実施日	3
II	茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(平成 28 年度事業)	4-5
III	教育に関する事務事業の点検・評価シート	
No.1	小中学生ヘルメット購入補助事業	6
No.2	児童・生徒防犯対策事業	7
No.3	道徳教育推進事業	8
No.4	読書普及推進業	9
No.5	語学指導事業	10
No.6	教育支援センター事業	11
No.7	学習指導支援講師配置事業	12
No.8	特別支援教育支援員配置事業	13
No.9	中学生自然体験教室事業	14
No.10	農業体験事業	15
No.11	放課後スクールサポート事業	16
No.12	スクールバス運行事業(青葉小)	17
No.13	スクールバス運行事業(青葉中)	18
No.14	青少年育成事業	19
▷ No.15	放課後子ども教室推進事業	20
No.16	町民教養講座開設事業	21
No.17	長生大学運営事業	22
No.18	人づくり推進事業	23
No.19	茨城町子どもフェスティバル	24
No.20	図書館運営事務	25
No.21	読書推進活動事業	26
No.22	読書推進活動事業	26
IV	教育委員会における今後の対応について	27

教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成20年4月1日施行)の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、平成29年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

3 対象

茨城町第5次総合計画後期基本計画に基づき、平成29年度に実施した教育委員会の主要な21事業を対象とした。

4 点検及び評価の方法

- (1) 各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2) 各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3) 学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

【原課評価:事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

○必要性・・・「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」

○有効性・・・「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」

○効率性・・・「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

【委員評価:評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

委員長

高橋 燦吉 (元八戸工業大学学長)

副委員長

清水 正三 (茨城町教育支援センター 生徒指導相談員)

委員

早乙女 恵美子 (元町教育委員会職員)

6 評価委員会実施日

平成30年8月9日(木曜)

茨城町の教育に関する事務事業の

事業数	分類	目的	VLT	事業資源元				事業対象範囲	
				国	県	町	参	幼児/幼稚園	小学校
1	学校教育の充実・人権教育・啓発活動の推進	通学時における児童・生徒の安全確保	○			○			No.1 児童・生徒
2		規範意識や社会性の向上				○			No.2 道徳教育
3		国語力の向上と心の教育の充実				○			No.3 読書普及
4		英語教育の強化と指導体制の充実				○			No.4 語学
5		不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援				○			No.5 教育支援
6		個に応じたきめ細やかな学習支援				○			No.6 学習指導支
7		障害のある児童・生徒の学習支援				○			No.7 特別支援教育
8		自然体験と集団生活を通じた人間育成				○	○		
9		体験学習を通じた人間育成				○			No.9 農業
10		放課後学習活動等の支援				○			No.10 放課後スクールサポート事業
11 12		通学における利便性・安全性の向上		○		○	○		No.11 スクールバス運行事業(小学校)
13 14		通学における安全性の向上				○			No.13 小学生ヘルメット購入補助事業
15		青少年文化財の保護と健全育成の推進・進歩・文化学習の推進・芸術の振興・生涯学習の推進	体験学習を通じた人間育成	○			○	○	
16	次代を担う人材の育成		○			○	○		No.16 放課後子ども教室推進事業
17	生涯学習と社会参加の促進		○			○	○		
18	高齢者の生涯学習の促進					○	○		
19	文化・芸術を通じた人間育成					○			No.19
20	スポーツを通じた心身の鍛錬及び人間育成					○			No.20 茨城町子ども
21	幼児教育の充実	地域における情報拠点としての図書館運営				○			No.21 図書館
22		絵本を通じたコミュニケーションの促進	○			○		No.22 読書推進活動事業	

VLT:ボランティア協力者の有無 参:参加者負担金の有無 原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

点検・評価(平成29年度事業)

事業対象範囲		原課評価			委員評価	
中学校	生涯教育	必要性	有効性	効率性	評価	意見等
	防犯対策事業	高	高	高	現	防災無線や青色パトロールによる巡視は、不審者などの犯罪抑制に一定の効果があると思われるので、今後とも現在の水準を継続していくことに努められたい。 110番の家についても、今後、学校を通して児童・生徒に周知徹底し事業の推進に努められたい。
	推進事業	高	高	中	現	各校において、道徳教育の推進に向け、道徳教育講演会の実施に取り組んでいることは大変望ましい。 平成30年度より小学校、平成31年度より中学校において道徳が教科化されることに鑑み、今後も講演会を活用して道徳教育の推進に努められたい。
	推進事業	高	高	中	現	最近読書離れが叫ばれているが、このような事業を続けていくことは子どもたちの国語力向上に大変有効であり、心の教育の充実も望める有用な施策である。今後とも、事業の継続に努められたい。
	指導事業	高	高	高	現	年々、英語の学力診断テストの平均点数が上がってきており、効果的な事業である。 平成32年度から小学校において英語が教科化されることから、より充実した事業の実施に努められたい。
	センター事業	高	高	高	現	児童・生徒が不登校状況になったときに、早期解決を図るために教育支援センターを活用又は連携することを保護者に周知徹底することに努められたい。また、学校の担当教諭と教育支援センターが連携し、家庭訪問や情報交換を行うことにより、早期に問題解決が図れると思われることから、さらなる事業の推進に努められたい。
	援講師配置事業	高	高	中	現	講師を配置し、きめ細やかな授業を行うことにより、児童・生徒の学習への意欲が高まるなど効果が出ている。今後、事業の継続に努められたい。
	支援員配置事業	高	高	中	現	配置が必要な児童・生徒の状態などにより、きめ細やかな対応が求められることから、今後もより一層の充実した事業の実施に努められたい。
No.8	中学生自然体験教室事業	高	高	中	現	生徒同士の交流や史跡見学、自然体験など、思い出に残るとともに、生徒にとって将来プラスになる面が大きいので、今後も事業の推進に努められたい。
	体験事業	高	高	高	現	地域の主要産業である農業について学ぶことは重要なことである。今後とも事業の継続に努められたい。
		高	高	中	現	放課後スクールサポーターは時間給での雇用となっているうえに、一日当たり1時間程度の短時間の勤務であるため、協力者を探すのが難しいと思われる。人材確保の検討に努められたい。
No.12	スクールバス運行事業(中学校)	高	高	高	現	遠距離通学の児童生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る重要な事業であるので、次年度以降も推進されたい。
No.14	中学生ヘルメット購入補助事業	高	中	高	現	町として児童生徒の交通安全を推進することは重要である。今後も継続して実施に努められたい。
	育成事業	中	中	中	縮	長期宿泊型事業については、ボランティアや実行委員からの協力が得にくくなっていることから、一旦事業を縮小するか、あるいは他の事業と統合して行うなど事業の見直しに努められたい。
		高	高	高	現	現在、NPO法人に委託して実施しているが、将来的には地域の方々に参加し、子供の放課後の見守りも兼ねる自主的な取り組みを検討されたい。
	No.17 町民教養講座開設事業	中	高	中	現	実施自体は活発に行われているとのことで、今後も着実な事業実施に努められたい。また、高齢者を積極的に講師に採用することにより、地域の活性化を図るような施策も検討されたい。 さらに、町民講師の中で意欲がある方がいれば、その潜在的な労働力を活かし、他課と連携することによって、人員不足も解消できるのではないかと考えられる。
	No.18 長生大学運営事業	高	高	高	現	リピーターが多く、着実に事業の定着化が図られている。今後は、参加者を増やす新たな企画なども検討しながら事業の継続に努められたい。
	人づくり推進事業	高	高	高	現	町民に対する学びの機会の提供として、今後も継続した事業実施に努められたい。
	フェスティバル	中	高	高	休	平成30年度、平成31年度は国民体育大会のため休止のことであるが、再開の際には、また町民が楽しめるイベントとなるような事業を検討願いたい。
	運営事務	高	高	中	現	職員の対応も丁寧で、至る所に椅子が設置しており、また、人気の高い書籍や高齢者向けの大活字本図書の蔵書拡充など、きめ細やかなサービスが来ている。今後も同様の事業実施に努められたい。
		高	高	中	現	乳幼児期から本に親しむことを目的としたブックスタート事業や各学校の司書教諭との連携をより堅実にし、図書室運営に努められたい。

委員評価は、「現:現行どおり」、「拡:拡大」、「縮:縮小」、「休:休止」、「廃:廃止」の5段階評価

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1

平成29年度

事業名	児童・生徒防犯対策事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	13 児童・生徒防犯対策事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		129千円		129千円		128千円	
4 事業の目的	対象	PTA会員、「110番の家」看板の設置宅						
	目的	登下校時における犯罪等の未然防止に努め、学校、PTA、ボランティアなど地域全体で児童・生徒の安全を確保することを目的とする。						
5 事業の概要	<p>【保険】 立哨、引率等、防犯活動に対する保険のため、茨城県PTA安全互助会の加入者負担金を支出。</p> <p>【「110番の家」看板】 協力者宅に配布する看板を作製。(看板の残枚数の状況に応じて作製)</p>							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	「110番の家」看板設置軒数			982軒	910軒	800軒		
	小中学校からの不審者情報に関する報告件数			7件	8件	6件		
	小中学校における通学安全対策に係る組織の設置数			8校/8校	6校/6校	6校/6校		
	町防災無線による下校時間の周知			毎週火曜日の下校時間にあわせて実施				
	青色パトロール車による巡視			登校期間における毎週木曜日以外に実施				
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童生徒の安全は地域社会における重要事項の一つであり、昨今の社会情勢を鑑みてもその必要性は高い。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	報告された不審者情報件数はほぼ横這いといってもよい件数であり、今後ともこのような活動のは継続していくべきものと考えられる。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	青色パトロール車については、町教育委員会および町長公室の協力により日々実施を行っている。また、防災無線については町民よりさまざまな意見をいただいているため、音量を絞るなどの対策を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり							
	<p>防災無線や青色パトロールによる巡視は、不審者などの犯罪抑制に一定の効果があると思われるので、今後とも現在の水準を継続していくことに努められたい。</p> <p>110番の家についても、今後、学校を通して児童・生徒に周知徹底し事業の推進に努められたい。</p>							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2

平成29年度

事業名	道徳教育推進事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティー(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	17 道徳教育推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		358 千円		192 千円		120 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒						
	目的	生命尊重の心や自尊感情を育み、規範意識や社会性の向上を図る。						
5 事業の概要	【道徳講演】 道徳教育講演会(朗読劇等)、非行防止(薬物乱用の怖さ等の講演)、交通安全教室(警察等による講演)、情報モラルに関する講演(携帯、パソコンの使用について)							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	道徳講演会実施校数				8校	6校	6校	
	実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数				4校	6校	6校	
	立志の集い				2中学校合同	2中学校合同		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	充実した道徳教育の時間を確保することは、児童・生徒の豊かな心の育成に必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	道徳講演会においては、各学校が講師を招き、子供たちが社会規範を学ぶ機会として積極的に執り行っている。児童生徒からも積極的な意見交換がされ、豊かな心の育成を進めることが出来た。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	2中学校合同の立志の集いについては、各校ごとに別日程で立志の集いを実施している関係上、生徒や教員の負担になっている面があるとの声が聞かれたため、平成28年度をもって取りやめた。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止 ○ 廃止	
	● 現行どおり		各校において、道徳教育の推進に向け、道徳教育講演会の実施に取り組んでいることは大変望ましい。 平成30年度より小学校、平成31年度より中学校において道徳が教科化されることに鑑み、今後も講演会を活用して道徳教育の推進に努められたい。					

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3

平成29年度

事業名	読書普及推進事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	18 読書普及推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		224 千円		213 千円		222 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒						
	目的	読書活動の推進を通して、児童・生徒の国語力の向上と心の教育の充実を図る。						
5 事業の概要	児童・生徒の読書活動を推進するため、読書記録(書名、作者名、感想等)を記載させる用紙及び用紙の保管用のバインダーを配布し、年間を通じて目標冊数を達成した児童・生徒に対して、賞状を授与する。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	小学校1～6年生の6年間で100冊以上の本を読んだ児童数				599	627	638	
	中学校1～3年生の3年間で50冊以上の本を読んだ生徒数				58	58	24	
	読書は好きですか(全国学習状況調査の結果) 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合				小：71.8% 中：71.4%	小：80.5% 中：73.0%	小：77.0% 中：74.1%	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒の国語力の向上及び心の教育の充実のため、読書の有効性が注目されており、読書活動を推進するために本事業が必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業を中心とした読書活動の推進により、家庭での読書の習慣が定着し、児童の年間の読書冊数は増加傾向にある。また、多くの児童生徒が年間の読書冊数の目標を達成していることから、これに伴い児童・生徒の読解力が向上してきている。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	町の年間の読書冊数の目標を設定し、小学生が100冊以上、中学校は50冊以上の達成者に対して賞状を配布した。今後もより事業効果が上がるように努める。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり							
	最近では読書離れが叫ばれているが、このような事業を続けていくことは子どもたちの国語力向上に大変有効であり、心の教育の充実も望める有用な施策である。今後とも、事業の継続に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート 事業 No.4

平成29年度

事業名	語学指導事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策		2 学校教育の充実				② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	12 語学指導経費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円		
	一般財源		12,456 千円		12,050 千円		12,375 千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	児童・生徒の英語学力の向上と、将来、国際化社会において活躍できる人材の育成を目指す。							
5 事業の概要	外国人の語学指導助手を小・中学校に配置し、児童・生徒の英語力の向上のため英語教育の充実を図る。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成27年度	平成28年度	平成29年度
	英語力の向上(学力診断テスト1年生の平均点)						72.4点	78.1点	79.3点
	ALT配置状況						3名	3名	3名
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		国際化社会で活躍できる人材育成のサポート役として、ネイティブ・スピーカーであるALTの必要性は大きい。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		小学校においてもALTを活用することで、中学1年生の学力テストにおける平均点は上昇している。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		小学校での教科化に向け、授業時数が平成30年度以降、増えていくことから、ALTの配置、授業内容の改善等、より効果的な活用に努める必要がある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	年々、英語の学力診断テストの平均点数が上がってきており、効果的な事業である。平成32年度から小学校において英語が教科化されることから、より充実した事業の実施に努められたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5

平成29年度

事業名	教育支援センター事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり				
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実					
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	13 教育支援センター経費			
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度				
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円				
	その他財源		0千円		0千円		0千円				
	一般財源		6,110千円		6,539千円		6,368千円				
4 事業の目的	対象	児童・生徒及び教職員									
	目的	不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童・生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談を受け、教職員の指導力向上を図る。									
5 事業の概要	【勤務時間】	年間を通じて、実情に応じて勤務(7時間45分以内/日、3日以内/週)									
	【勤務内容】	主な業務は、不登校をはじめとした生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対する指導や相談業務である。また、各小中学校教師の生徒指導力の向上を図るための研修を行う。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度						
	不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く)		24人	25人	25人						
	児童・生徒100人あたりの不登校の出現者数		0.98人	1.04人	1.05人						
	教育支援センターへの相談件数		756件	938件	597件						
	相談員の配置状況		6名	7名 <small>(週の全体勤務時間は変わらず、人員のみ増)</small>	7名						
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	不登校等の児童生徒における指導上の問題は、家庭環境や友人関係に起因するものが多く、根深いうえに複雑化しているため、必要性は高い。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	平成28年度よりも相談件数は減少したが、保護者からの相談窓口としての役割を果たしており、様々な問題に対し幅広い対応がとれるように、学校との情報交換等が密に図られるようになっている。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	児童・生徒100人あたりの不登校の出現者数が増加傾向にあるため、経験豊富な学識経験者を起用することにより、問題に効率的に対処している。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	児童・生徒が不登校状況になったときに、早期解決を図るために教育支援センターを活用又は連携することを保護者に周知徹底することに努められたい。また、学校の担当教諭と教育支援センターが連携し、家庭訪問や情報交換を行うことにより、早期に問題解決が図れると思われることから、さらなる事業の推進に努められたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

平成29年度

事業名	学習指導支援講師配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 充実した教育と教育施設の整備		
	基本施策	2 学校教育の充実				①教育内容の充実			
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	16	学習指導支援講師配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度			平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
一般財源		16,961 千円			17,256 千円		13,617 千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	全国学力・学習状況調査の結果や町指導主事による学校訪問指導の結果を総合的に考慮し、学力低下が懸念される学校や落ち着いたある学級運営が困難化している学校へ講師を配置し、きめ細やかな授業を展開し、学力の向上を図る。							
5 事業の概要	<p>【勤務時間】 年間1,050時間以内(8時間以内/日, 30時間以内/週, 5日以内/週)</p> <p>【勤務内容】 学級担任とともにチームティーチング指導の実施。 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導の実施。</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	学習指導支援講師数(配置校数)					8人(6校)	8人(6校)	7人(6校)	
	全国学力・学習状況調査		国語の勉強は好きですか			63.4%	71.7%	61.9%	
	対象:小学校第6学年児童		国語の授業はわかりますか			84.1%	88.3%	84.6%	
	「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合		算数の勉強は好きですか			74.1%	76.1%	67.2%	
		算数の授業はわかりますか			86.7%	89.1%	82.6%		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		各学校の状況に応じて、非常勤講師を配置することで、少人数単位で柔軟に対応することができ指導が行き届くようになるため、必要性は高い。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		国語や算数の授業がわかると回答した児童の割合が8割を超えており、個別指導や少人数学習による学力の定着に効果をあげている。						
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各学校の実状に即し、より高い事業効果をあげるべく、事業の運用方法を随時改善し、効果的に活用できるよう対応していく必要がある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止
	● 現行どおり		講師を配置し、きめ細やかな授業を行うことにより、児童・生徒の学習への意欲が高まるなど効果が出ている。今後も、事業の継続に努められたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート 事業 No.7

平成29年度

事業名	特別支援教育支援員配置事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		2 学校教育の充実			② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	17 特別支援教育支援員配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		7,513千円		7,220千円		9,004千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒(肢体不自由・発達障害がある者)						
	目的	普通学級及び特別支援学級に在籍する肢体不自由や発達障害のある児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止など安全面に配慮した支援を行う。						
5 事業の概要	【勤務時間】 年間900時間以内(6時間以内/日, 28時間以内/週, 5日以内/週) 【勤務内容】 日常生活の介助, 教室間移動の介助, 健康・安全確保, 教材作成等を行う。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	特別支援教育支援員数			9人	8人	10人		
	特別支援教育支援員配置校数			6校	6校	4校		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	支援を要する児童・生徒が年々増加する中, 適切な教育を実施し, 円滑な学校運営を行うためには, 各学校の実状を把握したうえで現状に見合った数の支援員を配置することは必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	児童・生徒の校内における日常生活の支援及び安全確保が可能となり, 同時に学級が落ち着き, 授業に集中することができるようになった。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	支援を必要とする児童・生徒の増減に応じて支援員の配置人数も増減するため, それに合わせて経費も変動する。今後も支援が必要な児童・生徒の状況の把握に努める必要がある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止			
	● 現行どおり	配置が必要な児童・生徒の状態などにより, きめ細やかな対応が求められることから, 今後もより一層の充実した事業の実施に努められたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8
平成29年度

事業名	中学生自然体験教室事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり			
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実				
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	28	中学生自然体験教室事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度			
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円			
	その他財源		9,420 千円		9,270 千円		8,700 千円			
	一般財源		397 千円		378 千円		393 千円			
4 事業の目的	対象	生徒(中学校2年生)								
	目的	集団生活を通して、礼儀・規律・責任・協力・自立などの心を育むとともに、生徒相互及び生徒と教師の心の交流を深める								
5 事業の概要	町内2校の中学校2年生が合同で、4泊5日の日程で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。 ※ふるさと創生事業基金充当 参加者×3万円									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	青葉中参加生徒数					134名	125名	100名		
	明光中参加生徒数					180名	163名	170名		
	計					314名	288名	270名		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	中学校時代の良き思い出作りとして、また、豊かな情操教育の一環として必要性が高い。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	北海道の大自然の中、4泊5日の日程で共に過ごすことにより、生徒同士や教員との絆が育まれた。また、ポロコタンなどのアイヌ文化の史跡を訪れることで、実体験に基づく見識を深めることが出来た。								
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	旅行会社や関係者と十分協議をしたうえで概ね適切な事業計画・執行がなされた。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要					○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止	
	● 現行どおり									
生徒同士の交流や史跡見学、自然体験など、思い出に残るとともに、生徒にとって将来プラスになる面が大きいため、今後も事業の推進に努められたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9
平成29年度

事業名	農業体験事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 充実した教育と教育施設の整備	
	基本施策		2 学校教育の充実				① 教育内容の充実	
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	29 農業体験事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		127千円		140千円		78千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒						
	目的	農業体験を通して、生命を大切に作る心や思いやり、助け合いの心、困難にくじけず力強く生きる力を育む。						
5 事業の概要	【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。				【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。			
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	実施校数			8校	6校	6校		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		平成23年度から実施されている学習指導要領に「食育の推進」が位置づけられており、食育の推進を行う活動として必要である。					
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか		活動を通して、生命の大切さを学び生産者の苦勞を知り感謝の気持ちを持つことができるようになった。また、仲間と協力して活動を行うことの大切さを学ぶことができた。					
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか		体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対する謝金等適切に執行されている。また、JA水戸の協力を得て、職員を講師として派遣してもらっている学校もある。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止		
	● 現行どおり							
	地元の主要産業である農業について学ぶことは重要なことである。今後とも事業の継続に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10

平成29年度

事業名	放課後スクールサポート事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	1 明日を担う人づくり			
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	31	放課後スクールサポート事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円		
	一般財源		951 千円		1,413 千円		1,332 千円		
4 事業の目的	対象	児童(青葉小学校・葵小学校 低学年)							
	目的	スクールバスを運行する青葉小学校・葵小学校に配置し、高学年の下校時刻との間にずれが生じる低学年に対し、待ち時間に学習等活動の支援を行う。							
5 事業の概要	<p>【勤務時間】 青葉小学校、葵小学校の授業日において、実情に応じて勤務する 勤務時間は1日1時間以内</p> <p>【勤務内容】 児童の学習の見守り、読書活動を実施</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	放課後スクールサポーターの配置状況				15名	18名	19名		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合によるスクールバスの導入に伴う児童の下校時間のずれを解消することを目的とした事業である。放課後のクラブ活動や委員会等に出でし、まう教職員をサポートするために必要性は高い事業である。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	上級生の下校を待つ時間を有効に活用することで、下級生の学習習慣の定着につながっている。							
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	クラスごとに配置しており、人員が必要とされる一方で、短時間勤務のため、サポーターの収入は少なく、人員確保が課題である。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止				
	● 現行どおり	放課後スクールサポーターは時間給での雇用となっているうえに、一日当たり1時間程度の短時間の勤務であるため、協力者を探すのが難しいと思われる。人材確保の検討に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11

平成29年度

事業名	スクールバス運行事業(小学校)						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策		2 学校教育の充実			② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	2	目	1	事業	14 小学校スクールバス運行事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		23,209 千円		33,703千円		33,919千円	
	その他財源		10,534 千円		14,303千円		13,695千円	
	一般財源		33,575 千円		48,377千円		47,575千円	
4 事業の目的	対象	青葉小学校・葵小学校に在籍し、おおむね3km以上の地区から通学する児童(希望制)						
	目的	学校統合により、遠距離通学となる児童の通学の安全及び負担の軽減を図る。						
5 事業の概要	<p>【運行車両】大型バス8台、中型バス8台、小型バス2台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時1回、下校時1回の計2回</p> <p>【停留所数】青葉小学校:48ヶ所、葵小学校:22ヶ所</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円(8月分の利用料は徴収しない)</p> <p>・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	スクールバス利用者数				381名	515名	491名	
	スクールバス年間運行日数				206日	207日	205日	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法等を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	スクールバスを導入して3年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故やトラブルもなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法等を精査したうえで、入札により決定した適正な価格で事業運営を行った。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止 ○ 廃止	
	● 現行どおり		遠距離通学の児童の通学の安全及び負担の軽減を図る重要な事業であるので、次年度以降も推進されたい。					

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.12

平成29年度

事業名	スクールバス運行事業(中学校)						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策		2 学校教育の充実			② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	14 中学校スクールバス運行事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		3,413 千円		3,303千円		3,367千円	
	その他財源		921 千円		888千円		711千円	
	一般財源		3,399 千円		3,542千円		3,656千円	
4 事業の目的	対象	青葉中学校に在籍し、昭和区及び網掛区等、遠距離から通学する生徒(希望制)						
	目的	学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。						
5 事業の概要	<p>【運行車両】中型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回</p> <p>【停留所数】4ヶ所(宮ヶ崎第六公民館・香取学習館・網掛学習塾前・網掛ゴミ収集所)</p> <p>【利用料】利用者1人につき月額3,000円(8月分の利用料は徴収しない)</p> <p>・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	スクールバス利用者数				30名	29名	23名	
	スクールバス年間運行日数				200日	201日	199日	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	スクールバスを導入して4年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故やトラブルもなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査したうえで、入札により決定した適正な価格で事業運営を行った。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり		遠距離通学の生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る重要な事業であるので、次年度以降も推進されたい。					

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

平成29年度

事業名	小学生ヘルメット購入補助事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	14 通学援助費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		635 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		0 千円		589 千円		2,700 千円	
4 事業の目的	対象	児童						
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。						
5 事業の概要	<p>新入学児童全員にヘルメットを配布した。また、平成29年度は耐用年数が3年であることを考慮し、4～6年生に対し新たなヘルメットを配布した。</p> <p>(平成28年度までは、総務費の地方創生費で予算計上)</p>							
	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	ヘルメットの無償提供数				280名	266名	1,047名	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	当町は公共交通機関に乏しく、スクールバスを導入している学校に在籍する対象地域の児童以外は原則徒歩通学となる。そのため交通事故から子どもたちを守る対策が必要である。						
	有効性	○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	平成29年度は、耐用年数が経過している4～6年生にも配布を行なったため経費が増大したが、平成30年度以降の配布は新入学児童及び4年生となる。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり							
	町として児童の交通安全を推進することは重要である。今後も事業の継続に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

平成29年度

事業名	中学生ヘルメット購入補助事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策	2 学校教育の充実			② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	3	目	2	事業	14 通学援助費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		815千円		0千円		0千円	
	一般財源		0千円		751千円		672千円	
4 事業の目的	対象	生徒						
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、生徒の安全を確保することを目的とする。						
5 事業の概要	<p>新入学生徒のうち自転車通学者に対し、ヘルメットの購入額を全額補助した。</p> <p>(平成28年度までは、総務費の地方創生費で予算計上)</p>							
	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	ヘルメットの無償提供数				290名	268名	240名	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	中学校の生徒は、青葉中学校の対象地域の生徒以外、ほとんどが自転車通学となる。そのため交通事故から子どもたちを守る対策が必要である。						
	有効性	○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	登下校中の生徒を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
経費や手段は適切であるか	新入学生徒の増減により経費は変動する。購入額の全額補助により入学時の保護者の負担を軽減している。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止 ○ 廃止	
	● 現行どおり							
	町として生徒の交通安全を推進することは重要である。今後も事業の継続に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

平成29年度

事業名	青少年育成事業						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		3 青少年の健全育成			① 青少年の育成支援		
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	12 青少年育成事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		406 千円		447 千円		380 千円	
	一般財源		108 千円		207 千円		168 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒						
	目的	町内の子どもたちが一堂に会し、自然豊かな環境の中で生活することにより、子どもたちの創造力や協調性を養い、忍耐力を身に付け、生き抜く力を育むことを目的とする。						
5 事業の概要	【実施期間】 平成29年7月29日～8月3日(5泊6日) 【実施場所】 涸沼自然公園等 【参加人数】 児童・生徒 45人 【研修】 事前研修 3回, 事後研修 1回							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	筑波山登山			○	○	涸沼ハイキング		
	食育体験			食事づくり	食事づくり	食事づくり		
	公園周辺クリーン作戦			○		涸沼ハイキング		
	里山体験				○	○(民泊含)		
7 事業の評価	必要性		○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		日常生活では経験できない活動を通して、協調性や困難を乗り越える忍耐力を培い、達成感を味わう機会を提供している。					
	有効性		○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか		異年齢の子どもたちが共同生活を送ることで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついている。					
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか		これまでの資機材を有効利用し、経費の節減に努めている。また、会場準備や子どもたちの見守り等については、保護者等町民からの協力を得ている。しかし、近年は保護者からの協力が得にくく、職員への負担が増加しているため、今回は5泊6日で実施した。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	● 改善が必要		○ 拡大 ● 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	○ 現行どおり							
	長期宿泊型事業については、ボランティアや実行委員からの協力が得にくくなっていることから、一旦事業を縮小化するか、あるいは他の事業と統合して行うなど事業の見直しに努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート 事業 No.16
平成29年度

事業名	放課後子ども教室推進事業					担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		3 青少年の健全育成			① 青少年の育成支援	
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業 13 放課後子ども教室推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度
	国・県・支出金				2,307 千円		1,883 千円
	その他財源				431 千円		576 千円
	一般財源				1,671 千円		1,982 千円
4 事業の目的	対象	児童					
	目的	共働き家庭の「小1の壁」を打破するとともに次代を担う人材を育成するため、放課後児童クラブ及び地域住民等の参画を得て、全ての児童が放課後を安全安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう推進していく。					
5 事業の概要	平成28年度から町内全4小学校において実施。 長岡小学校、大戸小学校、葵小学校は定員100名、青葉小学校は定員150名。 放課後の時間を利用して、将棋教室、読み聞かせ、工作、スポーツ、自主学習等を行っている。						
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成27年度	平成28年度	平成29年度
	実施校数					4 校	4 校
	参加者数					271 人	366 人
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	参加児童や保護者から好評を得ており、口コミ等により年度途中からの参加も増えている。また、二年目に参加者が増加したことは、事業への理解が得られたものと考えられる。					
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか	参加児童の保護者から、「放課後子ども教室に参加した感想等、家での会話が増えた。」「活動中に作った作品を持ち帰ってきてくれて嬉しい。」「宿題を終わらせてくれるので、家でのコミュニケーションの時間が増えた。」等の感想をいただいている。					
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか	現在は、業務委託により行っている。長岡小学校においては、参加児童の保護者がスタッフに加わっているが、他校においても地域住民の参画を増やしていく必要がある。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止				
	● 現行どおり						
	現在、NPO法人に委託して実施しているが、将来的には地域の方々が参加し、子供の放課後の見守りも兼ねる自主的な取り組みを検討されたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.17

平成29年度

事業名	町民教養講座開設事業					担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進	
	基本施策		1 生涯学習の推進			①生涯学習機会の充実	
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業 13 町民教養講座開設事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円
	その他財源		521 千円		488 千円		490 千円
	一般財源		428 千円		259 千円		69 千円
4 事業の目的	対象	全町民					
	目的	町民に様々な学習の機会を提供をすることにより、より豊かな情操を持ち学習意欲を高め、社会への積極的な参加を促すとともに、自分の生涯学習を見つけることを目的として開講する。					
5 事業の概要	【平成29年度実績】			【事業の流れ】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・10回講座 つるし餅, ヨガ, ハワイアンストレッチ ・5回講座 ソープカービング(経験者), ヨガ等 ・3回講座 季節の和菓子, 初めての茶の湯等 ・2回講座 大人のキーボード講座, 親子英語講座 ・1回講座 寝相アート 以上13講座 			4月中旬 受講者募集(全戸にチラシを配布) 5月上旬 募集締切 6月開講			
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	長期講座(全10回以上)受講者数		11 人	6 人	56 人		
	短期講座(全10回未満)受講者数		198 人	102 人	119 人		
7 事業の評価	必要性	○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	若い世代への参加も促すため、親子英語講座や寝相アートなどの講座を開催し、幅広い年齢層に関心を持てるように努めている。					
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか	受講者が自主的に活動していくクラブ化が進み、生涯学習として長く続けたいける体制が増えてきており、実績・成果ともにあげられている。					
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか	平成28年度から町民講師を活用している。また、新規講座の開設に向け、県央公民館連絡協議会加盟市町村等から情報を得るなど、講座の充実に努めていく。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり	実施自体は活発に行われているとのことで、今後も着実な事業実施に努められたい。また、高齢者を積極的に講師に採用することにより、地域の活性化を図るような施策も検討されたい。 さらに、町民講師の中で意欲がある方がいれば、その潜在的な労働力を活かし、他課と連携することによって、人員不足も解消できるのではないかと考えられる。					

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.18

平成29年度

事業名	長生大学運営事業					担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり			節	3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進	
	基本施策	1 生涯学習の推進			① 生涯学習機会の充実		
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業 14 長生大学事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円
	その他財源		216 千円		221 千円		200 千円
	一般財源		741 千円		857 千円		743 千円
4 事業の目的	対象	65歳以上の町民					
	目的	時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいのある人生を送るための学習やクラブ活動を行うことを目的とする。					
5 事業の概要	【事業内容】 実施回数：9回(うち野外研修1回) 活動内容：講話聴講(午前) 受講料：1,000円 送迎バス：1,000円(希望者)			内容 ・民謡と講話、感染症、認知症予防、人権講座、 心臓病から脳を守る、シルバーリハビリ体操、 応急手当とAED、楽しい脳のトレーニング等 ・りんご狩り(太子方面)			
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	長生大学受講生数		190 人	200 人	194 人		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	毎年、長生大学の代表組織である運営委員会を開き、意見や感想を取り入れ、参加者の希望に添うような事業運営に努めている。					
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか	毎年継続して参加する受講者が多く、「良かった。」との意見をいただいている。					
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか	できるだけ低料金の講師に依頼するなどして経費の節減に努めている。受講者の募集は、高年者クラブや町広報誌で広く呼び掛けている。本年度(H29)から駒場庁舎での開催となり、長生大学の拠点ができたことから、問題なく遂行できている。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止	
	● 現行どおり		リポーターが多く、着実に事業の定着化が図られている。今後は、参加者を増やす新たな企画なども検討しながら事業の継続に努められたい。				

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

平成29年度

事業名	人づくり推進事業							担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進		
	基本施策	1 生涯学習の推進					① 生涯学習機会の充実		
2 予算の体系	款	10	項	5	目	7	事業	13	人づくり推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度			平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		507 千円			507 千円		507 千円	
4 事業の目的	対象	全町民							
	目的	一流の文化人による講演会を開催することにより、町民の学習活動を支援し、学習意欲の高揚を図ることを目的とする。							
5 事業の概要	【人づくり文化講演会】 講師：加来 耕三氏（歴史家・作家） 演題：歴史に学び、未来を読む 期日：平成30年2月11日（茨城町民の日） 会場：町立中央公民館大ホール								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成27年度	平成28年度	平成29年度
	文化講演会聴講者数						290 人	300 人	280 人
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	町民の学習機会の充実を図り、学習意欲の向上を支援するためには本事業の必要性は高い。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	日常生活における充実感や豊かな心を育むとともに、自己啓発の場としての効果をあげている。							
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	多くの町民の参加を促すため、広報いばらきやホームページへの掲載のほか、秘書広聴課所管の町民の日開催ポスター等にも掲載を依頼して周知を図っている。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止							
	● 現行どおり								
	町民に対する学びの機会の提供として、今後も継続した事業実施に努められたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

平成29年度

事業名	茨城町子どもフェスティバル						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進	
	基本施策		2 生涯スポーツ社会の実現				① スポーツ・レクリエーション活動の推進	
2 予算の体系	款	10	項	6	目	1	事業	19 茨城町子どもフェスティバル経費
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		505 千円		416 千円		379 千円	
4 事業の目的	対象	幼児・児童・生徒						
	目的	多年齢層による子どもたちが一堂に会し、スポーツレクリエーションの喜びや楽しさを味わいながら、協調性や創造性を育み、心身ともにたくましい郷土の担い手を育成することを目的とする。						
5 事業の概要	スポーツチャレンジステージ、レクリエーションステージ、にぎわい交流ステージを設け、各ステージにおいて団体種目及び個人種目、ニュースポーツ、アトラクションを実施。また、子ども会育成会等の協力で模擬店を出店したり、青少年育成茨城町民会議と共催でペットボトルキャップの回収を行っている。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	少年団対抗障害リレー参加チーム数			20 チーム	雨天中止	24 チーム		
	回収したペットボトルキャップ数			105,350 個	43,430 個	68,000 個		
7 事業の評価	必要性	○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	子どもたちが一堂に会し、楽しみながら仲間との交流を深め、スポーツやレクリエーションへの興味や関心を深める機会として、本事業は必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業は、子ども会育成会や体育関係団体など、幅広い層の協力のもと実施されており、世代間の交流を図り、地域の連帯意識を醸成するなど本事業の目的とする成果は十分あげられている。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	子ども達が、スポーツやレクリエーションを慣れ親しむ機会を確保できており、適切な事業運営がなされている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	● 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ● 休止 ○ 廃止						
	○ 現行どおり							
	平成30年度、平成31年度は国民体育大会のため休止とのことであるが、再開の際には、また町民が楽しめるイベントとなるような事業を検討願いたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.21

平成29年度

事業名	図書館運営事務						担当課	生涯学習課(図書館)		
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進			
	基本施策	1 生涯学習の推進				② 社会教育施設の充実				
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	11	図書館運営事務費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度			平成28年度		平成29年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		9,494 千円			9,617 千円		9,027 千円		
4 事業の目的	対象	図書館利用者(町内及び広域)								
	目的	図書館は地域の情報活用拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種のサービス及び情報を提供することを目的としている。								
5 事業の概要	一般利用者及び施設への資料貸出を行うほか、小さい頃から本に慣れ親しんでもらうため、乳幼児から小学校低学年を対象とした読み聞かせを開催。また、利用促進を図るため、夏休み1日図書館員(小学生)や施設見学を実施。さらには、図書館を通して、勤労観、職業観を養うために中高生の職場体験を実施している。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く)					134,520 点	129,120 点	122,840 点		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	情報通信技術の進展により、多種多様な情報についての要望が高いため、図書館として迅速で詳細な資料提供が必要となる。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	図書資料の貸出数については、前年度に比べ6,274点(4.9%)の減となっている。一方、保育園や小中学校など団体等への貸出し冊数については、新たに2つの施設が加わり、町内の21施設に対し図書の出前サービスを取り組むなど、16,955冊、前年度に比べ558冊の増となっている。								
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	図書・視聴覚資料購入費は、前年度より174千円(5.0%)の減となっている。利用者の要望等に対する対応については、幅広い選書による図書購入を行うとともに、相互貸借(県内図書館)を活用し、貸出対応を図っていきたい。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止								
	● 現行どおり									
	職員の対応も丁寧で、至る所に椅子が設置してあり、また、人気の高い書籍や高齢者向けの活字本図書の蔵書拡充など、きめ細やかなサービスが来ている。今後も同様の事業実施に努められたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.22

平成29年度

事業名	読書推進活動事業						担当課	生涯学習課(図書館)
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		1 就学前の児童の教育の充実				① 家庭教育の充実	
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	12 読書推進活動事業
3 事業費 (決算額)	財源		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		421 千円		539 千円		302 千円	
4 事業の目的	対象	生後6～8か月の乳児及び保護者, 小中学生						
	目的	ブックスタート事業及び小中学校へ図書館司書の派遣を行うことにより、乳児をはじめ、児童・生徒が本に慣れ親しみやすい環境を整え読書推進を図ることを目的とする。						
5 事業の概要	ブックスタート事業は、生後5～8か月児を対象に健康増進課で実施する乳児健康診査及びごっくん教室後に、図書館職員とボランティアによる絵本の読み聞かせを行いながら1冊の絵本を配布する。また、町内の小中学校へ図書館司書を派遣し、ブックトークをはじめ、読み聞かせや学校図書館の環境整備などの支援を行う。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度			
	ブックスタート事業(乳児健康診査・ごっくん教室)		166 人	183 人	161 人			
	小中学校への図書館司書派遣(司書派遣回数)		85 回	78 回	75 回			
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	少子化や核家族化が進み女性の社会進出も増え、地域との繋がりが希薄となり、子育ても孤立しがちな状況となっている中で、様々な角度からの子育て支援が求められている。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	絵本を通じて親子のふれあいの時間を持つことの大切さや、行政や地域が子育てを応援していることを、一人ひとりに伝えながら絵本を渡すことができています。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	ブックスタート事業で配布する絵本セットの購入費用として執行している。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止 ○ 廃止	
	● 現行どおり		乳幼児期から本に親しむことを目的としたブックスタート事業や各学校の司書教諭との連携をより堅実にし、図書室運営に努められたい。					

教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から今後の方針等、貴重なご意見をいただき、平成 28 年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては、事業の必要性、有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより、公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで平成28年度における主要 21 事業についての点検及び評価を実施し、事業の成果や課題の検証、さらに今後の事業方針等についてご意見をいただきました。

点検及び評価の結果、評価対象である22事業について概ね良好に執行されており、今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。各事業にてご意見やご指摘がございました課題や改善事項につきましては、再度、個々の事業を点検し、より事業の効果を高めるべく、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

次年度の点検及び評価につきましては、各事業に関するデータの分析を行い、次年度に活かすことについてご指摘をいただきました。また、よりきめ細やかな資料作りや数値に対する検証など、具体的な改善点もいただいております。今後も引き続き、点検及び評価の手法を改良し、実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は、評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに、事業のさらなる改善を図り、町民に信頼され、支持される教育行政の充実に努めてまいります。

平成30年8月
茨城町教育委員会